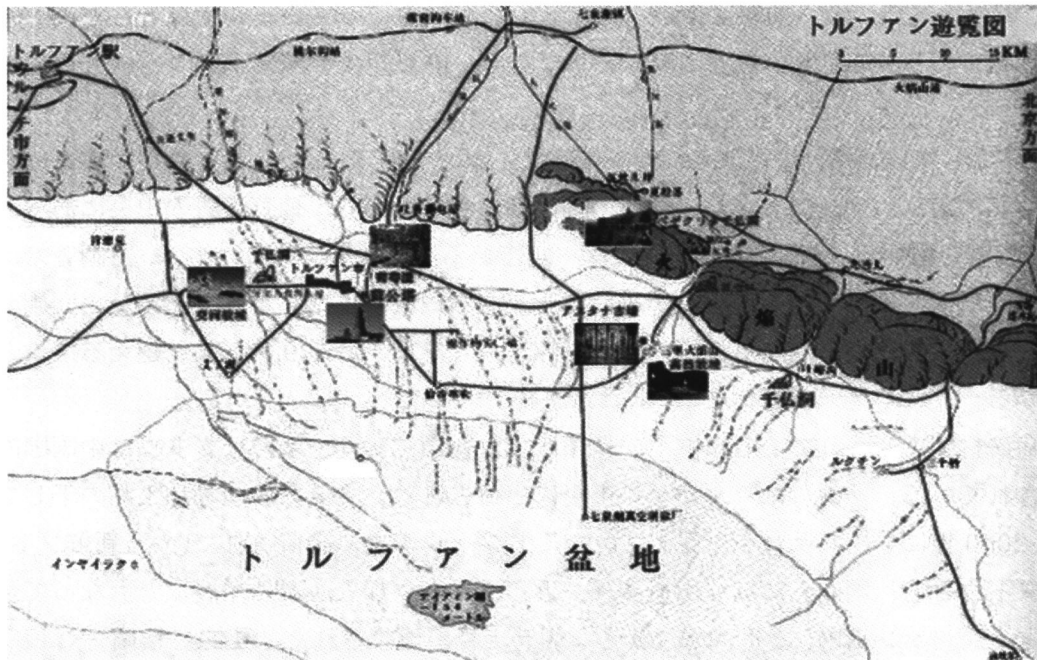


新疆ウイグル自治区・トルファン市郊外における農家楽の現状と課題

リシャラテ アビリム

1. 研究目的と研究の背景

トルファンは新疆ウイグル自治区を代表する観光地である。ウイグル民族が人口の多数を占めるトルファンには、毎年、国内はもとより海外からも観光客が多く訪れる。



出所：「トルファン遊覧地図」 <http://www.geocities.jp/vinira2126/turpantizu> (2015.2.6)

図1 トルファン遊覧地図

トルファンを代表する観光名所として世界的に知られているのが「交河故城」、「高昌故城」、「ベゼクリク千仏洞」、「アスタナ古墳」といった古代の都市遺跡や仏教遺跡である(図1)。観光は、これらの遺跡を巡る旅が中心であるため、観光客がウイグル民族の伝統文化に直接触れられる機会は少ない。トルファン観光では、利用の多くが西洋式宿泊施設での滞在と古代遺跡の見学が中心で、観光客にとって、ウイグル民族の伝統文化を享受しづらい構造となっている。

観光客の多くは、その地域の景観、産業、伝統的な民族文化などに触れたいという欲求も少なからずあると考えられ、それらを満たす方策を考えることによって、観光産業が発展すると思われる。

しかし、多くの観光客が利用する西洋式宿泊施設や「農家楽」の利益はその経営体に、古代遺跡によってもたらされた利益は遺跡を管理する業者にそれぞれ吸収され、広く地域全体の発展、経済発展に寄与しているといえない現状である。

本稿は、新疆ウイグル自治区の主要民族であるウイグル民族の伝統文化を観光に活用し、民族文化の保持・発展とウイグル族が居住する地域の経済的発展を両立させる可能性について考察するものである¹⁾。

2. トルファン市郊外の葡萄溝村の概況

葡萄溝村（図1）は、ウイグル語でブイルック（BUILUQ）という。気候は乾燥砂漠気候で、乾燥と高温が続く期間は長い。年間降水量は16.6ミリメートルでほとんど雨が降らない地域であり、年間蒸発量は2,838ミリである。40度以上の気温が幾日も続く砂漠地帯である。

トルファンの葡萄溝村は、トルファン市の中心部から東部へ12km離れた距離に位置し、谷が南北に走り、全長は8キロ、東西の幅は約2キロである。葡萄溝村の中央にある河川は、その間を横切る。総面積は65ヘクタールである。葡萄溝村委員会で行った調査では、村全体の戸数は395戸、2,630人が居住する。主な民族はウイグル族であるが、回族、漢族などの民族も住み、他から移住し商業を行う人々を加えると9,000人を超える人口となっている。

葡萄溝村で生産されているブドウの種類は52種類であり、新鮮なブドウは中国国内で販売されている。一部分はウルムチの市場に出荷される。主要な農産物加工品の干しブドウは、2000年にトルファン市に建立された干しブドウ市場に出荷されている。新鮮ブドウ、干しブドウとも、国内外に広く出荷され、近年、ブドウ加工産業の発展にともなって葡萄溝村とトルファン市内に、近代的なワイン製造工場が建設された。現在、「楼蘭」や「紅柳」といった品種の紅ブドウを原材料にしたワインが国内外の観光客に人気がある。

ブドウ畑の全面積は40万畝、ブドウの地区農業総生産産高は65%を占めている。新鮮ブドウの年間生産量は80万トン、干しブドウは13万トンである。ブドウの生産は、約3000年の歴史をもち、地元住民の重要な農業生産物である（Ümerjan Sidiq 2005: 101）。

そのほか、クワ、ナシ、クルミ、モモ、ザクロ、イチジク、アンズなどの果樹木が栽培され、収穫時期になると農家の門の前で、ブドウ、スイカ、メロンなどの果物が、籠に入れ並べられて販売されている。

農業は、天山山脈からの地下水を水源にした地下用水路（カレーズ）と灌漑用水路（エルク）を利用して行う灌漑農業が発達している。これを「オアシス農業」という。

観光地景区には、ブドウ文化を展示する葡萄溝遊楽園がある。また、博物館と音楽芸術館がある。ウイグル族の民族文化を表すオアシス葡萄溝園、ウイグル族の建築物の特徴や民俗習慣を表現する民俗古代村もある。主な民族はウイグル族で、観光産業、商店を経営

している回族や漢民族も共存している。

葡萄溝村は約 3000 年前から、火焰山の谷で、干しレンガの家を造り、天山山脈の雪解け水が流れる谷から用水路を手労働で造り、その水で、葡萄溝村の谷で葡萄を栽培し続けてきた古代村である。西の山脈は天山山脈であり、東は天山山脈の端となり、火焰山まで続いている。葡萄谷を山頂から観察すれば、美しい緑の帯が見られる。ウイグル民族は地下水路のカレーズを造り、葡萄を栽培し、歴史的な村を造り農村文化を伝承してきた。

3. 葡萄溝村における農家楽の開発と発展過程

(1) 農家楽の定義

「農家楽（民宿・民泊）」とは中国で流行している体験型の農村観光施設である。一般的には、郊外にある農家が田畑や住宅で、故郷の自然環境、風俗習慣、伝統文化、良質の食事を活用し、都会人を主なターゲットに、見学、休養、娯楽、料理、特産物ショッピングなどを提供する施設のことである（Anwer, Ilham 2011: 1）。

(2) 農家楽の開発と発展過程

葡萄溝村は、トルファン盆地に位置し、その昔、三蔵法師（602～664 年、中国・唐代の僧）も通ったという火焰山自然景観、火焰山周辺の古代遺跡、仏教千仏洞、高昌古城、交河古城など、約 1600 年以上前からの歴史がある古代遺跡、観光名所の通り道に位置しているという地理的条件に恵まれている。

「農家楽」は、遺跡を見学、観光にやってきた観光客が、ウイグル族の伝統的な民俗文化、オアシス農業生活を見学するために、村の中に入って、農家の生活文化とふれ合い、地場農産物をお土産として購入し、村人とふれ合うようになったことが、その始まりである。

さらに、葡萄溝遊楽園国際観光賓館が 1982 年に建築されたことで、葡萄溝村の観光開発が始まった。宿泊施設（賓館）に泊まった観光客は、周辺の農家まで足を運び、村の歴史を聞かせてもらい、農家で地元料理をご馳走になり、カレーズの水を飲み、ロバ車に乗って、村を見学するようになった。ウイグル族の伝統的な生活文化、風俗習慣など村の魅力的な観光資源は、観光客と地元農家を結びつけ、葡萄溝村のエスニック観光が発展していったと思われる。

現在まで葡萄溝の中で開発された主な観光名所は、オアシス国際葡萄莊園、APANDIM 観光楽園、DARWAZ 民俗公園、葡萄溝中心公園、葡萄溝遊楽園などであり、ほとんどが地域の少数民族の伝統的な生活文化とつながりを観光内容とした観光地である。（Ümerjan Sidiq 2005: 100）。

葡萄溝村において農家楽が成立したのは 1992 年である。政府により葡萄公園リゾート宿泊施設が建設され、それに従って沿岸部からの投資を受けた民族文化を観光内容にした

観光拠点が次々と建設された。葡萄溝を訪れる観光客は急速に増加した。観光バスが通る道路に面した両側の農家の住宅が、政府により民族風に改修された。観光客数の増加に伴って、地元農家は観光産業に参入するようになった。最初はブドウを販売することから始まり、農家を見学し、地元料理を味わい、服装・ことば・民族ショーなどの文化要素に対してニーズが出てきた。

葡萄溝村では、居住している農家を活用し、その農村の潜在力を発掘し、地域内で合意を得て、ブドウ商品を売り、観光客と交流するようになった。その地域に存在する条件そのものを地域の観光資源として活用したことにより、葡萄溝村は村に住んでいる農家が期待した経済効果をもたらすようになった。

観光客もまた、農家の日常生活とふれ合い、地域の料理を味わい、地域の干しブドウなどの特産品を買い、地方の民族風俗を鑑賞し、ゲストとホストの対等な関係を結ぶことになった。これにより、観光客と地元農家の合理的な観光交流舞台としての「農家楽」が発生した。

ウイグル民族の建築物の特徴や民族風俗を表現する葡萄溝村住民の住宅、イスラムの生活習慣、オアシス生活を行ってきた集落のそのままの生活の様子は、伝統村の特徴として魅力的な観光資源となっている。

(3) 葡萄溝村での最初の農家楽経営

現在の「アイニ伝統文化体験型家族」農家楽は、葡萄溝で最初に農家楽を始めた家庭である。アイニ氏の農家楽を始めた父はすでに他界し、現在、経営者（41歳）は、妻（40歳）、妹（36歳）と弟（32歳）とともに経営を行っている。

1982年に葡萄溝遊楽園国際観光賓館が建設されたことを契機に、葡萄溝を訪れる観光客が増加した。アイニ氏の父は、1992年に、葡萄公園の門の前に新聞紙を敷き、その上に自分が生産した生食用のブドウや干しブドウを広げて販売し始めた。干しブドウは手製の籠に入れて販売した。父は、葡萄公園の門を出入りする観光客に声をかけ、ブドウは身体によいことを説明しながら試食させて購入してもらったという。

当初、周囲の人々は父の経営が成り立つとは思っていなかった。しかし、数年すると、父の隣に布を広げて生食用のブドウや干しブドウを販売する農家があらわれて、その数は増加していった。2004年には、葡萄溝村役場は、葡萄公園の周辺の路上でブドウを販売する者に対して使用料を徴収するようになった。使用料は、1年間で1,000元である。

トルファン地区観光局の「トルファン葡萄溝観光状況 2009年」の資料によると、2009年には農家楽の合計数は62カ所であるが、新疆ウイグル自治区観光庁の「農家楽検査管理部」の2014年の資料によると、2013年には、170カ所に達しているという。

アイニ氏は、葡萄溝で農家楽を行った最初の農家である。その契機は、ブドウを食べた観光客がブドウ畑を見せてほしいと希望したことであった。当時の観光客はほとんど外国人であり、国内の観光客は少なかった。外国人観光客は、アイニ氏の自宅を訪れて、ウイ

グル族の民族文化を見聞きし、写真を撮影した。そして、自宅に宿泊することを希望したという。当初は、ブドウを購入してもらったので、無料で宿泊してもらっていたが、観光客の方から宿泊料を払うと申し出るようになり、宿泊料をいただくことになったという。

農家楽を行政的に管理する機関はトルファン地区観光局であり、経営的な管理を行うのは、観光会社の役割である。主な経営範囲はトルファンの 18 ヶ所の遺跡などを含めた観光地であり、入場料を徴収する。

(4) トルファン市郊外における農家楽総数

1) 星級農家楽の検査基準

新疆ウイグル自治区の星級農家楽の検査基準は能力基準として、建築、装置、設備、サービスの質、飲食、建築デザイン、周辺環境、農家楽名称、知名度、満足度、規模などにより、自治区観光庁が農家楽を評価し、星の級を定めている。いずれもその検査結果により、新疆ウイグル自治区観光庁が「星級の許可書」を発行する。

新疆ウイグル自治区観光庁「農家楽の星級検査管理部 2013」の資料により、本論では 1 星から 5 星までの星級の基準を以下のように整理する。

- 5 星 A 基準：大規模...面積 30 畝以上、投資額 91 万元以上
- 4 星 AB 基準：大規模...面積 20 畝以上、投資額 51 万元以上 90 万元未満
- 3 星 B 基準：中規模...面積 10 畝未満、投資額 20 万元以上 50 元未満
- 2 星 C 基準：小規模...5 畝未満、投資額なし（基準検査を受ける）
- 1 星 D 基準：小規模...面積不限定、投資額なし（基準検査を受ける）

2) 農家楽数と星級状況

次に、新疆ウイグル自治区観光庁「農家楽の星級検査管理部 2013」の資料から、トルファンにおける農家楽数を農家楽の星級状況別に示したものが表 1 である。

表1 トルファンにおける農家楽数（単位：戸）

トルファン	1 星	2 星	3 星	4 星	5 星	星 級 農家楽	非 星 農家楽	合 計
農家楽合計	0	0	17	4	2	23	147	170 (100.0%)
企業農家楽	0	0	1	4	2	7	8	15 (8.8%)
民族文化体験 農 家 楽	0	0	16	0	0	16	139	155 (91.2%)

出所：新疆ウイグル自治区観光庁「農家楽の星級検査管理部2013」の資料より筆者作成

表1に示したように、トルファンでの農家楽の総数は170戸である。その内訳は企業農家楽が15企業(8.8%)であり、民族文化体験農家楽は155戸(91.2%)であり、企業農家楽の10倍以上となっている。企業農家楽は、3級が1企業、4級が4企業、5級が2企業であり、非星級農家楽が53%の8企業で過半数を占め、行政の星級資格指導が行き届いていない。

個人経営型の民族文化体験農家楽は、総数170戸の内、155戸(91.2%)であるが、この内、星級取得は16戸(10.3%)と少ない。139戸(89.7%)が非星農家楽で、行政の指導を受け衛生管理や環境条件を整え、基準に合うような努力が必要である。これらのことを総合的に分析すると、全体の農家楽合計の170戸のうち147(86.5%)戸が行政の指導を受け基準に合った農家楽を経営する必要があるといえる。

4. 農家楽の分類とその課題

(1) 農家楽の分類

表2は、新疆ウイグル自治区における農家楽を分類したものである。類型ごとにその内容を示した。

表2 農家楽の分類表

	類 型	内 容
1	見学・参観型	名所地の周辺に位置し、野菜園、果樹園、公園、森林園、動物園、芸術館、生態農業場、伝統村などの資源に恵まれた農家楽。
2	食 事 型	農村で栽培された野菜、山菜、果物、鳥肉、乳類、動物肉、魚類などで食事する農家楽と農産物を販売するショッピングやレストランに恵まれた農家楽。
3	ショッピング型	周辺に農産物市場、畜産物市場、水産物市場、工芸生活品市場などが立地した農家楽と自分が生産したものを自宅で販売する農家楽。
4	文化体験型	農家の伝統文化と触れ合い、畑で労働する、家畜を飼う、自分で料理を作る、手作り、音楽、踊り歌など様々な特色の体験項目をサービスする民族文化体験型農家楽。

出所：Anwar,lham(2011)『Hoila Aram Sayaxetchiligi』17～18頁を元に筆者作成

「見学・参観型」、「食事型」、「ショッピング型」、「文化体験型」は、トルファン市郊外の葡萄溝村の農家楽にみられるが、「娯楽型」、「福祉型」、「休養型」農家楽は地理的、自然環境の面から葡萄溝村では難しい。トルファン地区観光局、観光産業統計担当の話によると、トルファン市郊外の葡萄溝村で最初に成立した農家楽のタイプは「見学・参観型」農家楽であるという。

見学、参観する目的で観光客が増加するに従って、トルファン地方政府が農村観光開発に対する支援政策を進め、葡萄溝村の道路、水道、通信、ガソリンスタンド、電気、ごみ処理、運行バス、駐車場、リゾート施設、観光宿泊施設、スーパーマーケット、公園、博物館、農業用水路など基本的なインフラ整備を行った。

葡萄溝村の自然景観、オアシス農業、ウイグル族の伝統生活様式、民族服装、信仰、風俗習慣など、地域の人々の基本的な生活文化要素に興味を持ち、それらを見学、参観する観光客が増えてきたことは、葡萄溝村の農村観光の開発の鍵となった。地元住民は、観光客がウイグル族の自然な農家の営み、伝統文化などに興味を示していることを徐々に認識するようになり、自分たちの作った農産物、工芸品、民族商品などを観光商品として販売するようになった。このようなことから、葡萄溝村は周辺の果樹園、田畑、公園、森林園、民族古代村、砂漠生態植物公園、登山観光、遺跡、名所など、民族性の溢れる人文資源、とともに自然資源に恵まれたため、農家楽を見学、参観する観光客は年々に増加してきている。

(2) 農家楽が直面している課題

1) 見学・参観型農家楽

葡萄溝村に最初に成立した農家楽のタイプは見学・参観型農家楽であった。1980年代に作られた宿泊施設（賓館）に泊まる観光客が、周辺の農家を自由に散策、見学したことや葡萄溝村の近くにある遺跡文物を見学にやってきた観光客が村に入って、農村の家、畑を見学したことに始まる。

ここで、見学・参観型農家楽の事例として、大規模な「葡萄溝遊楽園」農家楽を紹介する。葡萄溝遊楽園は外部資本の大型農家楽であり、広大な敷地にウイグル族伝統建築博物館、ワイン博物館、ワイン工場、ブドウ畑、見学型のブドウ棚通路、人工池、居酒屋、ウイグル料理・洋式・中華レストランの経営を行っている。宿泊はできない、日帰り観光客向けの大規模農家楽である。

特色ある観光内容としてウイグル民族の結婚式を観光商品として提供し、女性、男性の舞踊団による舞踊や歌などは海外、国内の観光客に人気がある。農家楽の門前には、手作り工芸品、玉石、絨毯、干しブドウなどウイグル族の民族特産品を販売する土産店の商店街がある。

見学・参観型農家楽の見学内容は種類が豊かで、幅広い範囲で観光活動行うことができるが、それに伴う様々な課題も抱えるようになった。それらは、次のようなことである。

- ① 外部資金による経営者が、計画性のない建設を進め、村の緑地や農耕地を変更し、地域の先住民族の生活文化と異なる文化を導入し、また、自然資源を破壊する開発を行っている。
- ② 地域の自然環境条件を活用せず、人工的な建設に多くの資金を投資するためのコストが高くなり、その経費が観光客に反映され、観光客が敬遠することになる。

- ③ 衛生知識、自然環境、観光、安全などについての知識を学ぶ機会がほとんどない。また、優良な事例の情報も知ることがない。観光客に対してサービスをしようという積極的な姿勢を備えておらず、観光客のニーズが軽視される場合が多い。トイレ、シャワーや風呂の整備に対する意識は低く、農家楽の経営者は清潔なトイレに対して理解が低い。

2) 食事型農家楽

見学・参観する目的で観光客が増加するに従って、農村観光に参入した農家が増えた。農家楽の数が増加したことで、農家楽間に自然発生的に競争が起こり、訪問者数を増やすために、特色ある農家楽を工夫し、農家楽の観光体験内容が多様化した。

新疆ウイグル自治区では都市と農村の経済格差が大きい。農村観光が始まった頃の葡萄溝村の農家楽は、都市住民をターゲットに、特色ある料理を中心に提供した。そのため、都市から多くの訪問者を引きよせることができる食事型の農家楽が急速に増えた。

料理は、主に、ウイグル料理、ハラル中華料理、カザフ族料理、西洋式の料理である。酒類も提供される。それらに使用する材料は農村で栽培された有機野菜、山菜、果物、鳥肉、乳類、羊肉、牛肉、馬肉などであり、それらで様々な種類の地元料理やウイグル料理を作り出す。レストラン型農家楽、民族家族型食堂、飲食センターなどは都市住民や国内海外からの観光客に人気がある。

食事型の農家楽は、この 10 年間に発展した農家楽のタイプである。対象のほとんどは都市住民であり、そのほか、自治区各地、国内各地からの観光客もいるが、半分以上は地域の人々も利用する。そのため、イスラム圏の習慣による料理が主として提供されているが、タバコは禁止で、酒類を提供せず、そのようなものを持ち入ることも禁じられている。

次に、食事型農家楽の事例として、「パリダ農家楽」を紹介する。

経営者はパリダさん（36 歳）という女性である。夫は 38 歳で、ブドウ、スイカ、メロン畑の管理を行っている。基本的に提供する料理はウイグル料理と中華料理である。イスラムの習慣として豚肉、それに関わる食品は禁止である。

農家楽経営に参加する人々は、パリダさんと弟であり、季節的に夫も手伝う。調理人は 2 人、調理助手が 1 人であり、地元の若者である。パリダさんは会計と接待を担当している。料理の特色は羊肉を材料にしたポロ（焼き肉・シシカバブ）などウイグル族の伝統料理と鳥肉とトウガラシを材料にした中華料理が人気である。年間収入は 10 万元から 12 万元であり、冬は農家楽の建物、食堂の修理、畑の管理、情報発信の準備をしながら、春からの営業に備える。

食事型農家楽においては、次のような課題がある。

- ① トルファンを訪れる観光客は、中国の異民族の非イスラム人の数が年々増加する一方である。それ以外、欧米、日本、韓国など海外からの観光客も多く訪れるようになった。

葡萄溝村は国際的観光地域となったが、イスラム習慣により、伝統を維持する気質が強く、観光開発に対しても開放的な認識は高まらない。

- ② 食事のメニューを準備していない農家楽が多い。それは、観光客に対して料理の価額に関して不明な点が生じ、観光客に信用されてない。加えて、キッチン、衛生、施設の安全性、サービス質などに関する意識が十分に高まってない。

3) 文化体験型農家楽

文化体験型農家楽では観光客が農家の伝統文化とふれ合い、畑で労働し、家畜を飼い、自分で料理を作り、工芸品を手作りし、音楽・踊り・歌など様々な特色ある体験項目をサービスする。

文化体験型農家楽では葡萄溝村の自然景観、オアシス農業、ウイグル族の伝統的生活様式、民族服装、信仰、習慣など地域の人々の基本的な生活文化要素を体験できる。

文化体験型農家楽の事例として「グルバハル農家楽」を紹介する。経営者はホジャ氏（51歳）である。奥さん（48歳）、長男（25歳）夫婦、娘さん（19歳）の5人家族である。ホジャ氏は2006年6月、家族で農家楽をオープンさせ、2008年に「3星級」の認定を受けた。

家族型の農家楽で服装、言葉、キッチン、庭、建築などは民俗風である。観光客が自由に農作業も体験でき、ブドウ、スイカ、メロンなどを収穫できる。宿泊せず日帰りの客が多いため、ブドウ棚の下にベッド（幅広い大きなイスの上で休み、食事をする）が多く置かれている。観光客も家庭的なウイグル料理や中華料理を調理することに参加できる。自家菜園で収穫された野菜を材料にし、羊肉、鳥肉、魚類は購入する。家族でウイグル族の舞踊をサービスする。干しブドウと民族の手芸品を販売している。

文化体験型農家楽の人気は徐々に上がって、客数も増加しているが、次なような課題もある。

- ① 葡萄溝村には伝統的な農家住宅が多くあるが、農家楽の経営のために準備された建物は伝統的な建築様式が現代的なコンクリートの建築に変わりつつあり、「地方の伝統建築、民族色」が失われつつあり、田舎の「におい」が弱まり、農村生活の個性的な雰囲気が失われつつある。
- ② 他地域への見学、研修会などはほとんどなく、農家楽経営者は周囲の地域文化観光資源に対する認識が高いとはいえない。地域の経済的な発展につながることに少数民族の伝統文化や生活習慣の保護、保存などを代々、伝えていくという役割に対して、意識が低い。

4) ショッピング型農家楽

ショッピング型農家楽の経営者は、必ずしも地元の人とは限らない。経営者は様々な民族から成り、土産品の販売を中心に展開した農家楽である。販売する商品は、新鮮ブドウ、干しブドウ、ワイン、ブドウジュース、桑の実、桑の実ジュース、干し桑の実、有機野菜、メロン、ウリ、スイカ、地元の手作り民族工芸品、絨毯、玉石、料理、民族ショー、など

であり、観光特産として売り出されている。

ショッピング型の農家楽は生産される農産物により、2種類ある。1つは、農産物市場、畜産物市場、水産物市場、工芸生活品市場などの周辺に立地したショッピング農家楽である。2つ目は、自分が生産したものを自宅で販売するショッピング型農家楽である。

ショッピング型農家楽の事例として「ゲイニ農家楽」を紹介する。ゲイニ氏 1998 年から農家楽経営を始めた。それ以前から観光客がやって来て食事をし、宿泊をする人々にブドウなどを買ってもらっていた。

年々、国内の観光客が増加している。現在では来訪者の 9 割が日帰りの客である。販売商品は自家生産 26 品種の干しブドウとアーモンド、イチジクなど 13 種類の干し果物である。その他、民族帽子、衣装、民族楽器、玉、ナイフ、鏡、絨毯など様々な民族特産品を販売している。住宅はウイグル族の古代からの伝統建築であり、家族全員が民族衣装を着て魅力的な雰囲気を演出している。

このようなショッピングを中心に展開されている農家楽は、次のような課題を抱えている。

- ① 観光市場の将来的な発展方向に対して創造力が欠け、地域性、民族性など魅力的な観光資源を活用する活動が軽視されている。観光客に販売する商品のパッキングのノウハウ（日本のような包装紙、専用の袋がない）は非常に単純である。
- ② 観光客を連れてきて欲しい農家楽の農家が、前もって、旅行会社に保証金を預ける制度がある。農家楽の規模、希望により保証金は、3 万元から 5 万元、数十万元までである。農家楽の経営者は観光客の招請を旅行会社に依頼するため、農家楽が支払う保証金は最低 3 万元という。旅行会社に預ける保証金が多ければ多いほど、旅行会社が農家楽に案内する観光客数が多い。このような観光客を独占する状況は地元の農家楽が直面している大きな課題となっている。
- ③ 旅行会社および観光ガイドが、観光客の観光目的や観光ニーズを無視し、大規模の企業雇用型農家楽や一般の農家楽に対してショッピングを中心に営業を展開する。農家楽経営者の売り上げ収入のおよそ 20% を、観光ガイドに支払わなければならないとされ、観光案内ガイドに支払うリベートは観光ガイドによって割合が異なり、30%、40% を要求する観光ガイドもいるという。

このため、葡萄溝村のショッピングを中心に、経営を展開している企業タイプの小、中規模の農家楽は倒産する場合もある。したがって、農家楽経営に参入できず、地域の観光発展、特に農家楽の持続的な発展を阻害する原因になっている。今後、行政の指導と協力がなければ、農家楽の存在や持続的な発展は難しい。

以上、「見学・参観型」、「食事型」、「ショッピング型」、「文化体験型」の 4 つのタイプの事例を説明し、それぞれのかかえている課題を提示した。

葡萄溝村における 4 種類の農家楽の特徴は、下記のとおりである。

- ① 規模は資本によって異なり、葡萄溝村における見学・参観型、食事型、ショッピング型、

文化体験型の農家楽は、小規模、中規模、大規模の農家楽がある。中規模と大規模の農家楽のいずれも外部資本の農家楽が多い。文化体験型農家楽の大半は小規模であり、農家の経営がほとんどである。

- ② 企業的農家楽には小規模、中規模、大規模経営があるが、民族文化体験型家族農家楽のほとんどが小規模の家族経営が多い。
- ③ 葡萄溝村で農家楽経営に参加している民族は、ウイグル族、回族、漢族である。ウイグル族の経営では大規模の農家楽は少ない。中規模のウイグル族文化体験農家楽は少しずつ作られている状況にある。ウイグル族経営の農家楽は小規模の家族経営である。回族の農家楽は少ないが中規模の農家楽経営が多い。漢族の農家楽は外部資本が多く、中規模と大規模がほとんどである。

葡萄溝村では地理的自然的条件が整っていないので他地域に見られるような「娯楽型」、「福祉型」、「休養型」は経営されていない。新疆ウイグル自治区観光庁観光政策部の担当者の話によると、娯楽型、福祉型、休養型の農家楽は、ウルムチ市郊外、ナラティ草原観光地、アルタイのハナス湖観光地を中心に展開されている。ウルムチ市郊外に発展している農家楽は、資本としても、経営対象者としても、ウルムチのような都会の住民の条件に合わせて作られ自然環境の整った観光スポットでの高級型農家楽が多い。ウルムチ市郊外の南山観光地や東山観光地などは娯楽型農家楽と福祉型農家楽が数多くあり、富裕階層の人々をターゲットにした経営を展開している。

5. 今後の残された課題

現在、農家楽に参入しようとする準備をしている農家も少なくない。農家が自ら農村観光産業に参加し、農家楽の経営により、その地域と地元住民に、経済的効果をもたらすことが認識されつつある。

しかしながら、歴史の浅い新疆ウイグル自治区の農家楽の発展に関して、農家楽経営者が、今後、解決を図らなければならない課題として、全体的に個性的な特徴を失い、平準化しつつあることや販売商品の多様化に関する課題、地域伝統文化を資源として活用することに対する意識の低さ、衛生意識と衛生施設の整備の必要性、観光ガイドのリポートの問題がある。

開拓や開発が無秩序に行われ、外部資本の投入により発生する課題、観光地のインフラ整備などは行政の力が必要である。

今後、観光に携わる人々は、国内や国外の優れた事例を参考にし、観光地のあり方を研究することが必要である。このことによって新疆ウイグル自治区の農村観光は、ウイグル民族の民族伝統文化や生産される農産物、加工品などを観光資源とし、それによってもたらされる経済的効果は、民族の伝統文化を保持しながら農村地域の振興にも貢献することは当然であろう。

[注]

- 1) 2014年4月と9月の調査結果に基づいて、本論文をまとめた。

[参考文献]

Anwar, lham, 2011, *Hoila Aram Sayaxetchiligi*, Shinjang Haliq Nashiryati.

李青刊, 2011, 『農村旅行開発と経営』中国農業科学技術出版社.

「新疆ウイグル自治区」【旅行のとも, ZenTech】

(<http://www2m.biglobe.ne.jp/~ZenTech/world/map/china/Map-China-Region-Xinjiang-Uyghur.htm>, 2014.10.20).

新疆ウイグル自治区観光庁, 『農家楽の星級検査部 2013』の配布資料.

「トルファン遊覧地図」(<http://www.geocities.jp/vinira2126/turpantizu>, 2015.2.6).

Sidiq, Ümerjan, 2005, *Sehirlük Turpan*, Shinjang Haliq Nashiryati.

所属：山口大学大学院東アジア研究科

E-mail アドレス：nihonshimane@gmail.com